

中医学N 基礎理論

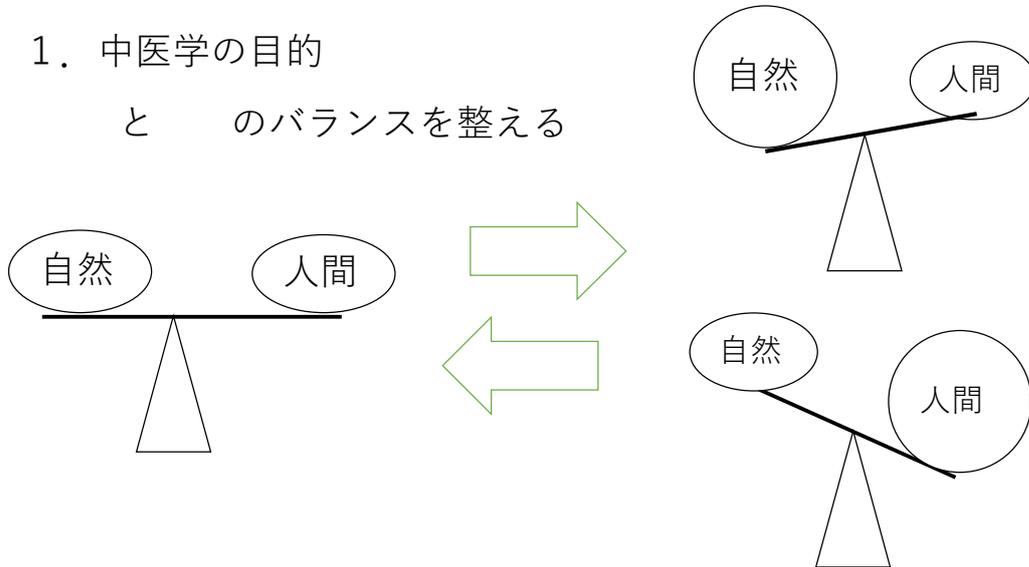
受講にあたってのお知らせ

- ★ 黒・赤・青・緑の4色を使います。
タブレット書込、或いはボールペンなど適宜準備してください。
- ★ 教科書を準備されてください（中医学N HP上）

1章 緒論

1. 中医学の目的

と のバランスを整える

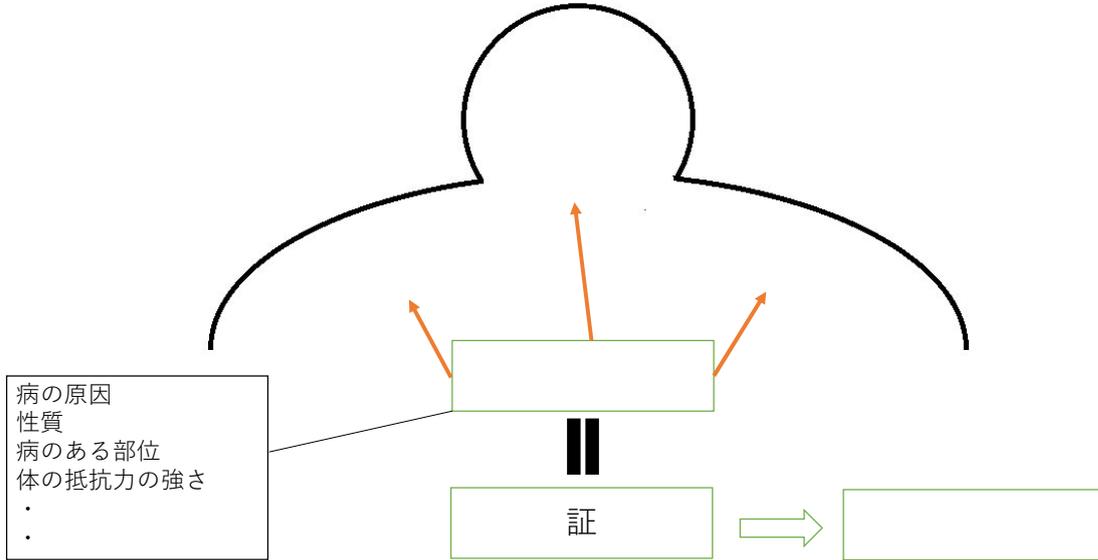


2. 特徴的な概念

| | | | |
|--|--------|-------|------------|
| | 人体を | に診る。 | も全体的に診る。 |
| | 診療ではまず | を決める。 | で治療法が決定する。 |

※ 証とは？

を一言で言い表したもの



(発病させる外的な力)

健康でいられる
範囲



(邪気に対抗する力)

例) 初冬のある日、薄着で外出したところ思った以上に寒かった。
翌日の朝から寒気、発熱があり、関節痛を自覚する。脈は浮緊である。

| | |
|------|--|
| 原因 | |
| 性質 | |
| 部位 | |
| 正邪関係 | |

| | |
|------|---|
| 弁証 | 証 |
| 論治 | |
| (治療) | |

一連の病態でも、状況は刻々と変化し弁証論治も変わる

冬の日
寒気、発熱、関節痛 → 高熱、喀痰、呼吸苦 → 発熱はない
鼻汁、咳嗽 → 倦怠感
口渇感

| | | | |
|------|----|----|--|
| 弁証 | | | |
| 論治 | | | |
| (治療) | など | など | |

・

症状等が異なっても、証が同一なら治療は同じ

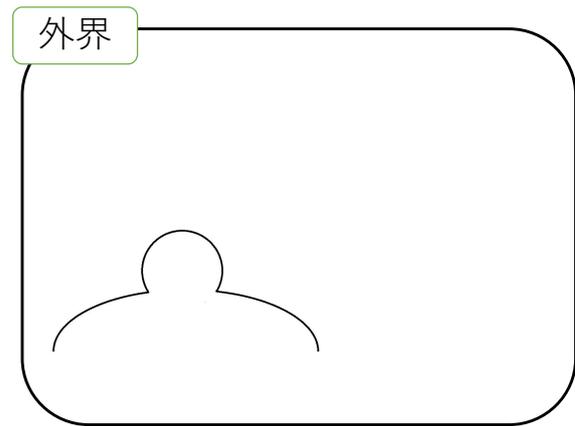
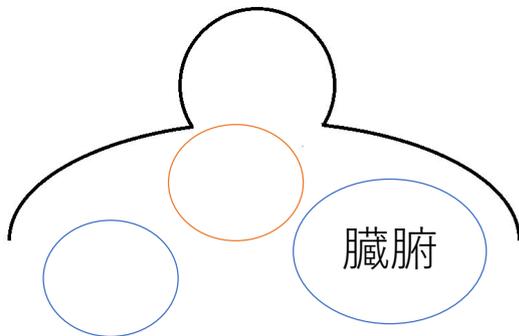
患者① 元気がない、めまい、脱肛

患者② 疲れやすい、頭痛、下痢

| | |
|------|----|
| 弁証 | 証 |
| 論治 | |
| (治療) | など |

・ 整体観念

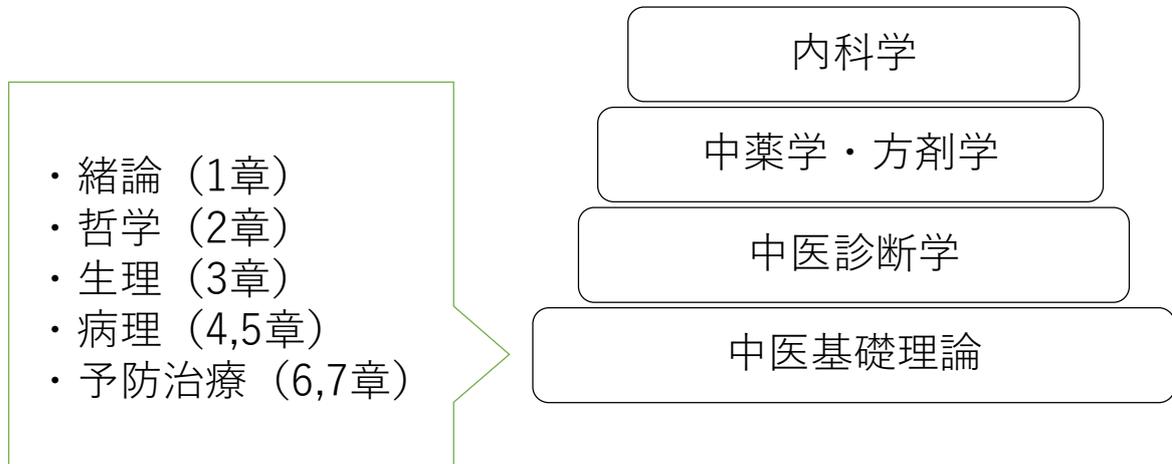
人体自身および人体と外界の統一性



人体には臓腑をはじめ様々な機構がある
それぞれが互いに
人体の活動が営まれる

人体と外界（自然環境）は
もの

基礎理論そしてその後の流れ



西洋医学の医師が東洋医学を学ぶ意義 (私見)

| | |
|------|----------------|
| 西洋医学 | 原因のはっきりした病が得意 |
| 東洋医学 | 原因が見えにくい病にも使える |

➡ 西洋医学で治せる病は西洋医学をまず薦めるべき

例えばこんな患者さんがいたら・・・？

48歳男性。3か月前から大便に血が混じることが気になり受診した。

西洋医学の医師が東洋医学を学ぶ意義②（私見）

| | | |
|----------|------|------|
| 日本 | 西洋医師 | |
| 中国、韓国、台湾 | 西洋医師 | 東洋医師 |

日本の東洋医学教育は十分とはいえない・・・
しかし西洋と東洋を併せて使うにはよい制度